

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各種入試ごとに学生受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定する。	→ 「入試形態と受入方針策定済みの入試形態」		A			
2. 各種入試の追跡調査・分析を行い、またその一環として学科別入試の追跡調査と分析を行う。	→ 「追跡調査の項目を設定し分析する責任組織の有無」、「追跡調査・分析の進捗状況・結果の報告書」		C			
3. 追跡調査の結果や教員の負担を考慮して、最適な入学者選抜方法と各募集人員に関する構想を作成する。	→ 「検討組織の有無」、「入試方法・募集定員に関する構想の有無」		C			
4. 各種入試の追跡調査の結果をふまえて、一般入試による入学者比率の引き下げ目標を設定する。	→ 「学部・学科の志願者・合格者・入学者の推移（大学基礎データ）」、「一般入試・各種入試の適切な入学者比率に関する目標の有無」		C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない (明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、(1) 科学的な思考方法の習得、(2) 広範な知識と社会的視野の獲得、(3) 正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4) 人権感覚の陶冶、(5) 国際的地球的な視野の確保という教育目標と、1. 学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、2. 少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標のもと、多様な選抜方法を採用し、多様な価値観・人生観・職業観を持つ学生を受け入れることを方針としている。指定校・協定校推薦については、学業のみならずスポーツでも優れた実績のある学生の推薦を依頼している。またAO入試については、大学生活、社会生活でリーダーシップを発揮できる人、コミュニケーション能力に優れた人の受け入れをアドミッション・ポリシーとしている。
	(説明) 指定校・協定校・高等部推薦入試以外については、2010年6月現在、ホームページ上でアドミッション・ポリシーを公表している。AO入試の説明会も開催している。
★小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) 一般入試以外に、AO入試、高等部推薦、指定校・協定校推薦、社会人・留学生・帰国生徒入試など、多様な選抜方法を採用している。また「推薦入学面接確認事項」、「外国人留学生入学試験取扱」、「帰国生徒入学試験取扱」等に基づき、法学部入試実行小委員会・AO入試実行小委員会が評価と選考案作りを行い、これをもとに法学部教授会が審議し、入学者を最終的に決定している。また出題採点や面接については、法学部教員が幅広く担当している。また、2011年度より、スポーツ能力に優れた学生を対象とする入試(以下、スポーツ選抜)の導入が決定している。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	(説明) 適切な定員の設定や入試のあり方については、追跡調査結果などを用いながら入試検討委員会、教授会で適宜検討している。ただし追跡調査は未だ部分的な調査にとどまっている。また定員充足率については、法律学科が2008年度0.95、2009年度1.04、2010年0.93、2011年度0.90であり、政治学科は2008年度0.95、2009年度1.36、2010年1.08、2011年度1.00であるが、法学部全体では、2008年度0.95、2009年度1.12、2010年0.96、2011年度0.92である。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学生の募集、入学者の選抜については、各入試実施後、入試実行小委員会・AO入試実行小委員委員会の報告をうけて教授会が検証するとともに、最終的な入学者の決定はすべて教授会が行っている。
その他	

## 《評価指標データ》

(特定指標データ) 本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名	650	680	680	680	680	
指標2	志願者総数	人	8,220	6,297	6,507	5,791	5,182	
指標3	合格者数	人	2,253	2,106	2,146	1,902	1,991	
指標4	入学者数	人	668	650	763	654	626	
指標5	志願者倍率	倍	12.6	9.3	9.6	8.5	7.6	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.05	1.01	1.02	1.02	0.99	入学者数÷入学定員
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	64.7%	64.0%	70.9%	65.7%	59.9%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	2,600	2,630	2,660	2,690	2,720	
指標9	在籍学生数	人	2,827	2,788	2,932	2,917	2,837	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	108.7%	106.0%	110.2%	108.4%	104.3%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人	(28)	(32)	(23)	(25)	(16)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人	38	26	54	21		

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

(その他の指標データ)  
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】  
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合  
 科目等履修者の入学者数  
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	一般選抜入試、AO入試に関しては、APが定められているが、全体でのAPは未だ定められていないので、これを定める必要がある。また、2011年度より、他学部と同様、スポーツ選抜制度の導入を行い、それにもなつて従前の指定校特別入試制度を廃止した。他にも、指定校推薦入試についても指定校の大幅な見直し、拡大を行った。
小項目5.0.2	2006年以降の一般入試入学者比率は概ね60%台半ばを推移しており、受験者の多様性は一定、実現されている
☆ 小項目5.0.3	入試のあり方については、入試検討委員会が2004・2008・2009・2010年度の学科別・入試形態別の成績・就職等に関する部分的な追跡調査などを用いて検討を進めている。また、学部全体としては、定員充足率も概ね良好である。
小項目5.0.4	概ね良好であるが、後述の通り、学科別の志願状況にアンバランスが生じている可能性がある。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	本年度新たに導入したスポーツ選抜の成果について、追跡調査を行うとともに、指定校推薦についても、出願状況等を踏まえて、継続的に見直しを行う。
小項目5.0.2	入試形態別の学生の入学状況についての追跡調査を行い、現状について、教授会等において周知徹底を行い、状況についての把握を全学部的に共有する。
☆ 小項目5.0.3	引き続き、入試形態別に学生の入学状況についての追跡調査を行い、データに基づき、各種入試の定員調整およびその充足率の達成を、入試検討委員会を中心として行う。
小項目5.0.4	入試形態別の学生の入学状況についての追跡調査を行い、データの分析およびそれについての対応を、入試検討委員会を中心に行う。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	スポーツ選抜等による入試制度の変更の成果について、基本的なデータを適宜収集する。
小項目5.0.2	高等部からの入学者が増加するよう対応をする必要がある。
☆ 小項目5.0.3	2012年度入学者について、学科間の定員充足状況に一定のアンバランスが生じた。具体的には、政治学科の志望者が多く、法律学科の志望者が少ない傾向が出た。
小項目5.0.4	指定校推薦による入学者が増加するよう対応をする必要がある。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	法学部志願者の増加に向けて、高等部における進学説明会等を充実させる。
☆ 小項目5.0.3	2010年度各種入試追跡調査に関する全学レベルの報告書が本年10月に提出される予定である。法学部ではこの結果をまっけて、まず追跡調査項目の検討・決定や分析を行う主体・組織を定め(現在の最有力組織は、既存の入試検討委員会である)、総合的な追跡調査の分析作業に着手することが必要である。その上で次年度以降、これをデータとして、最適な入学者選抜方法と各募集人員に関する構想の作成、一般入試の比率引き下げ目標の設定を行うことになる。
小項目5.0.4	昨年度は、指定校推薦について、複数推薦を依頼する高校に対して、学科指定のしほりを外した。これと同様、入学状況を踏まえて、指定校の追加や募集人員の増加等の対応をとる。
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

- 志願者倍率がやや低下傾向にあります。
- 収容定員に対する在籍学生数比率は105%程度に抑えられています。
- 一般入試入学者比率は全学の目標値である60%程度に抑えられている一方で、スポーツ選抜などの多様な入試方法が導入されている点が評価されます。今後追跡調査などにより、その有効性を検証することが期待されます。

##### 【学内委員】

- 適切な点検評価を実施しており評価できます。ただし、受け入れ方針が「多様」という言葉で包摂されてしまい具体性に多少欠けます。具体化を検討することが望まれます。
- 小項目5.0.1については、目標に対して順調に経過しています。ただし、全体でのAPが未だ定められていないので、早急に策定する必要があります。
- 各種入試の追跡調査・分析、及びその一環としての学科別入試の追跡調査・分析が行われていません。3、4の目標を達成するためにも、早急を実施することが求められます。
- 年々志願者数が低下し、志願者倍率も低下し続けていることが懸念されます。
- 詳細で適切な記述で好感が持てます。また、課題も的確に把握されています。今後の改善に期待します。なお、効果が上がっている事項、改善すべき事項における記述内容が各小項目で問われていることと違うものがあるようです。確認ください。
- 小項目5.0.3の記述における「定員充足率」は、入学定員に対する入学者数比率であり、単年度ごとに管理されており評価できます。ただ、大学基準協会における基盤評価が5年間平均と収容定員に対する在籍学生数比率ですので、これらについても触れられることを望みます。貼り付けられている《評価指標データ》に入学定員に対する入学者数比率を加えることもお考えください。「定員充足率」も「入学定員に対する入学者数比率」とされた方が分かりやすく、間違いがないと思います。
- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。
  - ・目標の2の追跡調査の実施がなされていません。3、4の目標の達成のための前提となるので、できるだけ早く実施することが望まれます。
  - ・編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも係わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目5.0.1
  - 基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」
- 小項目5.0.2
  - 基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」
- 小項目5.0.3
  - 基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
    - ※【定員超過の場合の提言指針】
      - 《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》
      - 1.20以上：努力課題
      - 1.25以上：改善勧告
      - 《医学・歯学》
      - 1.00以上：努力課題
      - 1.05以上：改善勧告
      - 《上記以外の分野》
      - 1.25以上：努力課題
      - 1.30以上：改善勧告
      - 《未完成学部》
      - いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。
    - ※【定員未充足の場合の提言指針】
      - 《全て》
      - 0.9未満：努力課題
      - 0.8未満：改善勧告
      - 《未完成学部》
      - 定員超過の場合の提言指針に準じる。
  - 「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
    - ※【定員超過の場合の提言指針】
      - 入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる
      - （なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）
    - ※【定員未充足の場合の提言指針】
      - 入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○志願者数、志願者倍率がやや低下傾向にあることはもちろん深刻に受け止めており、全国的な法学部の志願状況等との関連もあり、入試部からの情報提供を受けつつ分析を行っているところである。

○入試形態別の追跡調査は、入試部がデータを整理しており、入試制度の改革に利用している。

○「受け入れ方針が「多様」という言葉で包摂されてしまい具体性に多少欠け」という指摘がされているが、どの水準の具体性を求められているのか不分明である。

○全体でのアドミッションポリシーについては、2011年度から導入されたスポーツ推薦制度も含めた全体について、12年度に策定する予定である。

★○「各種入試の追跡調査・分析、及びその一環としての学科別入試の追跡調査・分析」という目標については、2011年度には、1、入試形態別の学力把握は行われている。また、出身高校別のそれも行われている。それらは、入試方法の検討のために使われ具体的に2012年度からの改善措置につなげられている。学科別の入学者状況についての分析も行われている。責任組織は、入試検討委員会である。

○目標の2については入試部が2010年度より導入した「各種入試の追跡調査・分析」に係るデータシステムが2011年度より学部でも利用可能となった。この点を踏まえ、学部で改めて入試制度の構想を行う。

○基盤評価に関しては、指標6、10の通りであり、それぞれ、0.99、104.3となっていることから、問題はないものとする。

○5.0.4については、全学的な数値目標を踏まえて、学部として対応する。